

### 534 放射性ヨード標識IMPを用いる腫瘍イメージングの基礎的及び臨床的検討

渡辺直人, 横山邦彦, 川畑鈴佳, 秀毛範至  
向加津子, 隅屋 寿, 関 宏恭, 松田博史  
石田博子, 小泉 潔, 油野民雄, 利波紀久  
久田欣一(金大 核)

脳血流測定用薬品として注目されている放射性ヨード標識IMPは, メラノーマ検出に应用可能と予測されるため臨床患者を用いて臨床的に検討した。又, 担癌動物を用いて, メラノーマを含む種々の腫瘍における腫瘍集積性を基礎的に検討した。

臨床患者としては, メラノーマ患者8名を用いて, 放射性IMPを静注後撮像した。動物実験モデルとして, B-16 melanoma, Lewis 肺癌, Hepatoma AH 109A, Ehrlich 腹水癌, 吉田肉腫及び薬剤誘発腫瘍を用いた。放射性IMP静注後イメージング及び体内分布の測定を行なった。B-16 melanoma 及び Lewis 肺癌には, 非標識IMP投与による放射性IMPの阻害実験を試みた。同時に, ミクロオートラジオグラフィーも試みた。

メラノーマ患者8例中4例は陽性像を呈した。B-16 melanoma 及び Lewis 肺癌は, 良好なる腫瘍集積性を示し, 高い腫瘍対血液比が得られた。又, 阻害実験では非標識IMP大量投与によつても, 有意の阻害は認めなかつた。IMPは, メラノーマ検出に有効な事が示唆された。